

Health

ADVICE

久原病棟師長の

調子はいかが？

くらて病院 ☎ (42) 1231

くらて病院スタッフ
からの健康
アドバイス



がん治療の緩和ケアについて教えてください。

がんについて

がんは日本の死因で最も多い病気です。現在、3人に1人ががんで亡くなっています。このようにがんは身近な病気です、あなたの身近な方もがんで悩んでいるかもしれません。

がんの症状

がん患者は、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感など様々な身体的な症状や、精神的な苦痛を経験すると言われています。

がんになるとどのようなことが起きるのでしょうか。主な事象として、次の4つが挙げられます。

- ・痛みや倦怠感などのさまざまな症状（痛みはがん患者

の70%にみられるといわれています。）

- ・落ち込み、悲しみなど精神的な苦痛
- ・せまりくる「死」への恐怖
- ・自分の「人生」に対する問い

そんながんによる心と身体の苦痛を和らげ、自分らしい生活を送れるようにするケアが「緩和ケア」です。

緩和ケアについて

緩和ケアとは、がん患者の苦痛を取り除き、患者とその家族にとつて、自分らしい生活を送れるようにするためのケアです。緩和ケアは、がんの診断時、治療中からがん診療連携拠点病院であればどこでも受けることができます。

緩和ケアの定義とは

（緩和ケア・netから引用）

- ・痛みや、そのほかの苦痛となる症状を緩和する
- ・生命を重んじ、自然な流れの中で死を尊重する
- ・死を早めることも、いたずらに遅らせることもしない
- ・死が訪れるまで患者さんが自分らしく生きていけるように支える
- ・患者さんやご家族に心のケアを含めたさまざまなケアをチームで行う
- ・生活の質を向上させ、前向きに生きる力を支える
- ・がん治療の初期段階から、手術、化学療法、放射線療法などと連携しながら、緩和ケアを行う

がんの痛みは我慢する必要はありません。痛みを我慢していると、不安になったり、感覚が敏感になったり、脈拍や呼吸が早くなる、血圧が上がるなど体に悪い影響を与えます。また、日常生活の面でも、食欲が落ちたり、眠れなくなったりさまざまな影響がでます。そのため、がんによる痛みは早く治療する必要があります。厚生労働省では、「がん患者とその家族が、可能な限り質の高い治療・療養生活を送れるように、身体的症状の緩和や精神心理的な問題などへの援助が、終末期だけでなく、がんが診断された時からがん治療と同時に進むことが求められている」としています。



【アドバイザー】

久原 聡子・くばらあきこ・平成5年近畿大学付属福岡高等学校看護科専攻科卒業。平成9年より鞍手町立病院（現 地方独立行政法人くらて病院）勤務。現在、3A病棟師長。

緩和ケアとは、**がんが診断された時点から、いつでも・どの病院でも受けることができます。患者やその家族に寄り添った身体的・精神的な苦痛を和らげるためのケアを行います。**